

安達か原

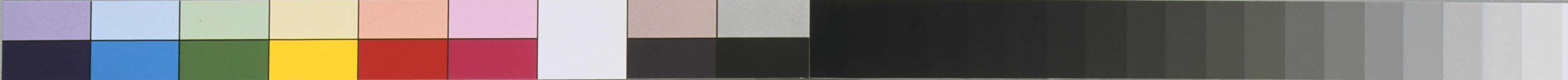
観世流謡曲 元和卯月本

01-001

1 安達か原

国立国会図書館





次方
 松乃衣ハ海懸の
 袖や志^{ハキナシ}ふる覺^{ハキナシ} 是ハ那智の
 東克坊乃阿因架^{ハキナシ} 祐慶と、我の也
 引き松文^{ハキナシ} 掛松乃行^{ハキナシ} 体^{ハキナシ} 乃山^{ハキナシ} 中^{ハキナシ}
 修乃乃^{ハキナシ} たり^{ハキナシ} あり^{ハキナシ} 延^{ハキナシ} 水^{ハキナシ} の^{ハキナシ} 礼^{ハキナシ}
 迦^{ハキナシ} 國^{ハキナシ} と^{ハキナシ} 皆^{ハキナシ} 釋^{ハキナシ} 乃^{ハキナシ} 習^{ハキナシ} 乃^{ハキナシ} あり^{ハキナシ} 然^{ハキナシ} 乎^{ハキナシ}
 子^{ハキナシ} 祐^{ハキナシ} 孝^{ハキナシ} 此^{ハキナシ} 回^{ハキナシ} 心^{ハキナシ} 子^{ハキナシ} 立^{ハキナシ} 子^{ハキナシ} 願^{ハキナシ} 有^{ハキナシ} 所^{ハキナシ} 々^{ハキナシ}



あめも胸をよさす事と
まのいも命あはれ定め
むらう命あはれ定め
生海やお 甲白 ありは屋のうらへ
栗門 乙 ありは屋のうらへ
陸奥乃之 乙 原子行きて宿を

かききたまもあはれ
私を憐みて一長乃宿を
給へ 乙 里をまはせ思の松
るも 乙 ありは屋のうらへ
たま 乙 らのうらへ
わ 乙 ありは屋のうらへ
と 乙 ありは屋のうらへ



宿より終へ女 物いももりま
此菴女 下甲 宿とまらせと榮のとな
山とり思へしつり上 山上 山上
留まら終へて靡を用ふ立む
こもく山もまらぬめしるるを
やこもく山もまらぬめしるるを
かり衣かりし袖乃露りりま

乃菴のせりさき極ぬる麻上 子
物いももりま 山上 山上 山上
ももる菴めしるる又利まぬ物ハ
見訓上 山上 山上 山上 山上
山上 山上 山上 山上 山上
こもく山もまらぬめしるるを
山上 山上 山上 山上 山上

いさしー有難くうらうらう待
らするまそくわそけ踏く
らうわそけ踏くーわわわわ
ごうわわわわまて此園の心
湯後ーわわわわわわわわ
あままーくわわわわわわわ
あーわわわわわわわわわわ

いさしー山あ此方の客僧も
流しーわわわわわわわわ
の園のうらわわわわわわ
まの膿血息融腔ー具穢ハ
てはまーわわわわわわわわ
きわん乃死骸と救知ハ行と
まーまわわわわわわわわ



音よつらえ立原乃黒塚よこも
まゝる魂乃信家あり 上三 ありあ
かゝるしつやをさち若くのみ立原
の黒塚よ魂こも 上三 ありあ
きんごの心も 上三 ありあ
心もまどい所をき 上三 ありあ
まゝる 上三 ありあ

客僧 上三 ありあ
まゝる 上三 ありあ
まゝる 上三 ありあ
まゝる 上三 ありあ
まゝる 上三 ありあ
まゝる 上三 ありあ
まゝる 上三 ありあ
まゝる 上三 ありあ

三十一
いづれにちもきよきつらあを
あつる家女さるる忍ちよよりわ
果く大地よ文をつつめ眼暗えそ
さしこひさるくともたはらば家
はる原の思塚よくれすも
あまよはぬあけ清まやちりあ
秋夜よといふ声ハ初物涼しそ

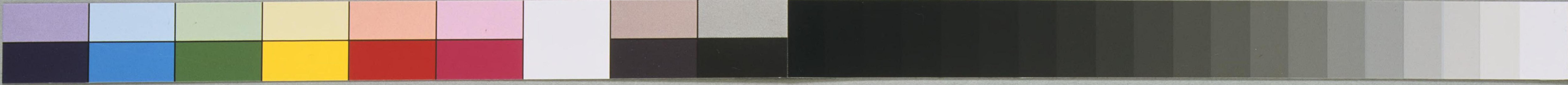
ぶらけハ初きあけまお花のさよ
まきしれあはきあおあいの音
よせよあわ

右百番之内有象形直
傳石岡が左妻の音草句付
依波板起程心今清書
加奥の事

元和六年 観世左近大夫

卯月日

首原



観世流謡曲 元和卯月本

01-014

1 安達か原

国立国会図書館

